

今回の東京方面企業・大学訪問でのたくさんの体験・経験は私にとってとても刺激的で素晴らしいものになったと感じています。どの体験も普段できるものではなく、もう一生出来ないであろうもので、それらが大変充実したものとすることができ達成感も感じています。中でも特に僕の印象に残ったのは企業訪問としての国立天文台見学ですが、他の体験もとても素晴らしかったので時系列にそって全て書かせていただきたいと思います。

東京についてまずは、笹川平和財団理事長の田中伸男さんにお話をいただきました。お話の主題は「世界を視野に、自らを生かす。」ということで、IEA・OPECと石油市場のお話やアメリカのオバマ大統領と対話した時のお話など世界が舞台のお話をいただくことができました。

田中理事長のお話の後、笹川平和財団・ディレクトフォースの六人の方々からお話をいただきました。どの方々も話の話題はやはりグローバル化でした。今の世界のグローバル化は止まらず、あり得ないことがあり得るようになってしまった。そのグローバル化に対抗するにはみんなと同じではなく個性を磨くことが大切だということ、また今重要視されている英語だけでは足りず中国語など他の言語を習得する必要があることなど、これからの私たちがすべき事のお話をいただきました。

次に私達は山手線や中央線を乗り継いで国立天文台へ訪れ見学をさせていただきました。まずは、最近よく話題にされる重力波を観測するという国立天文台の重力波検出装置のTAMA300を見せていただきました。三百メートルもあるレーザー干渉計の管を見せていただき奥の先端が見えないその長さに驚かされました。また、訪問するにあたってこの装置のことを調べていたときに私は「とても精密な装置なので、例えばトラックが装置の近くを通った時などの地面の震動によって装置が微妙に揺れることによって実験結果に誤差が生まれないのか」という疑問を持ちました。それについて数段に重ねた振り子を使い防振をすること教えていただきました。このような複雑で精密な機械なので防振のためにも難しい技術を用いるのかと思っていましたが、私のような一般の人にもわかる比較的身近な技術がつかわれていることを知りました。また「このようにかなり大がかりな装置を用いて検出する重力波にはどんな用途があるのか」という質問をすると、中性子星爆発を観測でき、それによって二つの星の合体見ることが出来その半径を知ることができるとの解答をいただきました。またアインシュタインの相対性理論からGPSを作り出したように私達の身近なものにも利用される日が来るかもしれないとのことでした。これを聞いて私はいつか重力波が一般に利用される日が来るといいなと思いました。

次に事前にお送りしていた質問内容の解答をしていただきました。まず最初に案内をしていただいた秋山先生への「天文について研究しようと思ったきっかけは何か」という質

問に答えていただきました。秋山先生が天文を研究しようと思ったきっかけは、カール・セーガンの著書の「COSMOS」を読んで、また銀河鉄道 999 を見て興味を持ったからということでした。思っていたよりシンプルな理由でしたが私はかっこいいなと思いました。また秋山先生が天文を研究するきっかけとなった「COSMOS」を私も読んでみたいと思いました。また二つ目に「天体を研究するうえで最も大切なことは何か」という質問をすると、疑問を持ち続けること・偏見や固定観念を取り除くことと答えていただきました。これは確かに研究をする上で大切だと感じる中でこのことは私達が勉強をする上でも同じことだと思いました。「この問題はこうだ。あの問題はああだ。」と解き方を何も考えずに暗記するというようでは大学受験など、到底突破することなんて出来ないだろうと思いました。ここからは天体についての質問に答えていただきました。オーロラ現象が起こる原理や宇宙はどこまで広がっているのかということ、またアルマ望遠鏡についてなど他にもたくさんの私達の質問・疑問に答えていただきました。たった一時間というとても短い時間でしたが本当に充実した素晴らしい時間を過ごさせていただくことができました。特に TAMA300 は普段は一般公開をしていないもので、そのようなものをみせていただくことができ本当に嬉しく思います。秋山先生をはじめとするたくさんの国立天文台の方々には本当に感謝しております。

その後宿泊先の品川プリンスホテルへ行き食事を摂った後、今度は二高 OB の先輩方との懇談会が行われました。東京大学や東京大学と同じレベルの大学の学生・院生・卒業生の方々が十名以上も来て下さりグループを作っての話し合いをさせていただきました。私達のグループに来ていただいた先輩方に高校時代の順位を伺ってみたところ、ほとんどの先輩は一位を取ったことがあることや悪くても三十位以内には入っていたということを知り、私とはレベルが違いすぎてやはり東大に入学するのは無理だなと思われました。しかし、お話を聞いている中で先輩方が成績良好だったのも東大へ入れたのも全ては努力のおかげだということもわかり、努力をしないで諦めるのは間違っているし、素晴らしい先輩方の高校時代のお話をせっかく聞くことができたのだから、私も最大限の努力をしないといけないなと思うことができました。また、勉強をするのも大切ではあるが勉強はしっかりとしようとするれば体力があるので、しっかりと食事・睡眠を取ることも大切だということも教えていただきました。成績を上げるには生活態度を良くすることが大切なのだと改めて知ることができました。他にも大学での生活についてもお話をいただきました。東京大学では入学してから二年後に進学振り分けというものがありそこから学部を決めることになることなどを教えていただきました。だとすると、明確に入りたい学部や尽きた職業が決まっている場合は東京大学でない大学のほうが良いかもしれないということもわかり大学を選ぶ際は偏差値だけで決めるのは良くないこともわかりました。この懇談会では一人の先輩につきお話できる時間が二十分程度でしたので本当に短い時間でしたが内容の濃い話し合いができました。

次に二日目の東京大学のオープンキャンパスです。これは実を言うとあまり楽しみではありませんでした。と言うのも私は参加したいと思った定員制企画への申し込みが遅れてしまい、参加することができなかったからです。企画の申し込みが開始してから約四十分でのことで驚きましたしとても残念でした。それでも当日の展示を見たり実際に東京大学に来たということで勉強のモチベーションを上げることはできたと思います。

今回の東京方面企業・大学訪問研修はこれで全行程終了でしたが、本当に有意義な時間を過ごすことが出来ました。どれもこれも普段は絶対にできないものでこの行事に参加して本当に良かったと思っています。一日目の企業・大学訪問は自分たちで訪問先を決め、自分たちでアポイントメントを取る自主性を高めることができました。

しかし、反省すべき点もあります。それは訪問先の国立天文台でもっとたくさん質問したりすれば良かったということです。かなり過密な日程で、全員疲れていたのもありあまり積極的なところをお見せできませんでした。せっかくお忙しい中で時間を取って下さった秋山先生や職員の皆様には本当に申し訳なくおもっております。また、東京大学での定員制企画に参加できなかったのは本当にショックです。

このことを踏まえて来年以降この行事に参加する人たちは前日はしっかり寝るなどして、全行程に全力で取り組めるようにして欲しいと思います。また定員制企画は自分が参加したいと思った物に何が何でも参加できるようにして、より有意義な行事にして欲しいです。